

## 第37回（平成8年度）東レ科学技術研究助成候補者推薦要領

### 1. 候補者の対象

貴学協会に関する分野で国内の研究機関において基礎的な研究に従事し、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的、萌芽的研究を活発に行っている若手研究者。

### 2. 研究助成金

総額1億3千万円。1件3千万円程度まで10件程度とします。

### 3. 推薦者

学協会の代表者および推薦委員。

### 4. 候補者推薦件数

1学協会から2件以内および1推薦委員から1件以内。

### 5. 推薦手続

所定の推薦用紙に必要事項を記載し、当会あて1部ご送付願います。

### 6. 推薦締切期日

平成8年10月9日（水）必着。

### 7. 選考方法

下記委員からなる選考委員会において、提出された書類により一次選考を行い、更に面接による二次選考を経て、評議員会において決定します。なお、二次選考対象の代表研究者の方は、平成8年12月下旬に面接をさせていただきます。

選考委員（委員長）有馬朗人 猪瀬 博 宇井理生  
吉森昭夫 櫻井英樹 中島尚正  
丸山工作 佐野信雄

### 8. 研究助成金の贈呈

平成9年3月の予定。

### 9. 推薦書提出先・連絡先

〒279 千葉県浦安市美浜一丁目8番1号  
（東レビル）  
（財）東レ科学振興会  
TEL：（0473）50-6103  
FAX：（0473）50-6082

- (注) a. 候補者は、必ずしも貴会会員であることを要しません。また貴会の関連領域にある候補者についてもご配慮願います。
- b. この研究助成金は、研究目的を達成するために有効に使用されるものであれば、どのように使われるものを申請されても結構です。ただし、助成金受領決定後、その用途を変更される場合は、事前に当会の承諾を得ていただきます。助成金は使用期間の制限がありません。
- c. 助成金の受領者は、研究終了時まで毎年「助成研究年次報告書」を、また研究終了時に、「助成研究終了報告書」を提出していただきます。
- d. この助成金は、所得税法（第9条第1項第13号二）の規定により非課税となっています。

## 第37回（平成8年度）東レ科学技術賞候補者推薦要領

### 1. 候補者の対象

貴学協会に関する分野で、下記に該当するもの。

- (1) 学術上の業績が顕著なもの
- (2) 学術上重要な発見をしたもの
- (3) 重要な発明をして、その効果が大きいもの
- (4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したもの

### 2. 科学技術賞

1件につき、賞状、金メダルおよび賞金500万円（2件前後の予定）。

### 3. 推薦者

学協会の代表者および推薦委員。

### 4. 候補者推薦件数

1学協会から2件以内（平成7年度に推薦された候補者（注b.）は外数とします）および1推薦委員から1件以内。

### 5. 推薦手続

所定の推薦書用紙に必要事項を記載し、当会あて1部ご送付願います。

### 6. 推薦締切期日

平成8年10月9日（水）必着。

### 7. 選考方法

下記委員会からなる選考委員会において選考し、評議員会において受賞者を決定します。

選考委員（委員長）有馬朗人 猪瀬 博 宇井理生  
 吉森昭夫 櫻井英樹 中島尚正  
 丸山工作 佐野信雄

#### 8. 科学技術賞の贈呈

平成9年3月の予定。

#### 9. 推薦書提出先・連絡先

〒279 千葉県浦安市美浜一丁目8番1号

（東レビル）

（財）東レ科学振興会

TEL：(0473) 50-6103

FAX：(0473) 50-6082

- (注) a. 候補者は、必ずしも貴会会員であることを要しません。また貴会の関連領域にある候補者についてもご配慮願います。
- b. 推薦を受けた候補者は、その年度および次の

年度にわたって選考の対象としております。したがって平成7年度に推薦された候補者については、平成8年度候補者として再度推薦の必要はありません。ただし平成7年度の推薦以後において、追加すべき顕著な業績又は発表や受賞があった場合は、平成7年度推薦書（コピー）に加筆して当会あてご送付願います。

- c. 受賞者は、原則して1件1人とします。特に複数であることを必要とするときはそれらの研究者の寄与が同等であることを示して下さい。ただし、この場合でも1件として取り扱います。
- d. この科学技術賞は、所得税法（第9条第1項第13号二）の規定により非課税となっております。

## 日本気象学会1996年度春季大会の報告

日本気象学会1996年度春季大会は、大宮ソニックシティを会場として1996年5月21日（火）～23日（木）に行われた。参加者数は714名（一般会員448名、学生会員176名、非会員90名）であった。

2日目午後には、大宮ソニックシティ小ホールにおいて大会シンポジウム「雷雲」が行われた。これに続いて総会が開かれた。その際、小寺邦彦会員と上田博会員に日本気象学会賞が、笠原彰会員と光田寧会員に藤原賞が授与され、総会終了後に受賞記念講演が行われた。

一般講演の発表申込件数は310件で、過去5回とほぼ同じであった。その内訳は第1種講演が234件、第2種講演が37件、ポスターが39件であった。第2種講演として申し込まれた講演のうち、予稿が第2種の要件を

満たさない等の理由でプログラム編成時に第1種に変更したものが6件（前回は4件）あった。今回もポスター発表の件数が多かったため、前回と同じくポスター・セッションを2回に分け、1日目夕刻と3日目午前に行った。スペシャル・セッションは「気象予報技術」をテーマとして第2日に行われ、9件の発表があった。

会期中およびその前日と翌日には、個別のテーマによる研究会が計3件開かれた。また3日目の昼休みには大会の改革案に関する懇談会が開かれた。

最後に、今大会事務局として大会準備・運営にご尽力頂いた東京大学海洋研究所の皆様へ深く感謝の意を表します。

1996年6月 講演企画委員会